

ジモトで座談会 ～市長と明日のまちを考えよう～ 第一地区 報告書

1 開催日時・場所

- (1) 日 時 令和7年3月14日（金） 午後4時～午後6時10分
- (2) 場 所 Mウイング 3-2会議室

2 テーマ

- (1) 駅前の再開発・中心市街地のこれから
- (2) 地区内の指定避難所と防災備蓄倉庫について
- (3) 松本城下町の舞台について

3 参加者数

28人（内訳：市長、市職員5人、意見交換者7人、傍聴者10人、地区職員5人）

4 参加団体

第一地区町会連合会、松本商店街連盟、民生児童委員協議会

5 テーマ別意見交換

- (1) 駅前の再開発・中心市街地のこれから
ア 課題説明等

【山田松本商店街連盟会長（本町2丁目）】

2月末にパルコが閉店し、街の人通りが減り、寂しさを感じています。幸い、新たな運営会社が決まり半年後に再開予定ですが、それまでの間、中心市街地の賑わい維持が課題です。にぎわい発信プロジェクトが立ち上がり、市議会でも高く評価されましたが、商店街組織の力は弱まっています。今後は官民一体となり、商店街を超えた新たな取り組みが必要です。また、駐車場の利便性が失われる懸念や、ウォーカブルな街づくりと車利用の両立も重要課題です。駅前再開発に向けても、できるところから即行動を始めていただきたいと思います。引き続き、松本市街地の活性化にご協力をお願いします。

【山越町会長（新伊勢町）】

駅前に70年住んできた者として、再開発について不安を感じています。特に、この地にこれからも住み続けられるかが心配です。過去の再開発で住民が減り、今では居住者もわずかで、高齢化も進んでいます。今回の再開発では、快適な住環境を守る設計をぜひお願いしたいです。例えば、商店街の下層階と居住用の上層階を組み合わせた案を行政主導で進めていただけるよう検討をお願いいたします。



【杉山民生委員（博労町）】

第一地区では、中心地にスーパーはデリシアー軒のみ、ホームセンターもなく、日常品の購入には郊外へ行かざるを得ない状況です。今後、ネットスーパーやネットショッピングの活用が必須になると思いますので、高齢者向けのスマホ教室の充実や、気軽に相談できる窓口を設けていただきたいと要望します。また、バスは、駅を経由しないと郊外のスーパーに行けない不便さがあります、第一地区でも使いやすいバス路線の整備をぜひ検討していただきたい。

【服部民生委員（伊勢町3丁目）】

担当地区には65歳以上が約100人、うち30人前後が独居高齢者です。医療機関や駅が近く、郊外の方からは住みやすいと見られていますが、新鮮な生鮮食品を扱う店が少なく、井上百貨店閉店後はデリシアーだけとなり、不安の声が上がっています。また、歩道沿いの民間駐車場周辺では敷石のガタつきや自転車の往来が多く、高齢者の通行に危険を感じています。これらへの行政の対応をお願いします。

イ 意見交換

【市 長】

松本駅前から松本城までの中核エリアについて、私たちは「再設計・再整備」を進めています。ただし、昭和の土地区画整理のような大規模な道路拡幅ではなく、今ある街並みを活かした形で進めます。特に駅東地区では、井上百貨店の閉店などを受け、建物の高さ制限の緩和なども視野に検討していきます。

一方で、中心市街地の買い物環境の再整備も急務です。民間の出店意欲を高めるため、マンション下層部にスーパーなどが入る仕組みを支援し、人が集う賑わいをつくりたいと考えています。

バス路線や交通面では、公共交通の維持に力を入れつつ、徒歩で楽しめる「ウォーカブルな街」づくりにも取り組みます。歩道の安全性確保や、スマホを使った高齢者支援も、これからの大切な課題です。

公園通りの歩行者天国の試みも含め、新しい世代による商店街の活性化を後押しし、皆さんと一緒に、松本をもっと魅力ある街にしていきたいと考えています。

【山田松本商店街連盟会長（本町2丁目）】

パルコの次の施設のオープンまでの中心市街地の賑わいについては、どう考えているか。

【市 長】

大きな建物の光が半年間消える中、地元と協力しながらできることを模索し、支援やアイデアを考えていきたい。

(2) 地区内の指定避難所と防災備蓄倉庫について

ア 課題説明等

【第一地区町会連合会 上條会長（本町1丁目）】

第一地区では、現在指定されている避難所がいずれも4階以上の中高層ビルであり、高齢者などの移動に大きな不安があります。特に、地震発生時にエレベーターが使えない状況で上層階へ避難する現実性に疑問があり、また避難所としての安全性を誰が判断するのかという点にも課題を感じています。地域の実情に即した、例として隣接地域も含めた避難所の見直しや、公園などへの簡易テント設置といった柔軟な対応を検討していただきたいと考えています。

また、避難所に備蓄されている防災物資も非常に限られており、災害発生直後の夜を越すのも心配な状況です。集中管理型ではなく、地域ごとに分散備蓄を行い、より確実に物資が行き渡る仕組みづくりが必要です。

加えて、第一地区公民館の自主管理スペースが非常に少なく、防災物資の保管や地域活動に支障が出ています。今後、駅周辺の市施設整備計画の中で中央公民館の移転なども含め、地域の防災力向上につながる施設整備を強く希望します。

【桑井町会長（伊勢町2丁目）】

現在、第一地区の指定避難所であるMウイングは、電気が止まるとエレベーターも水も止まってしまう。地下に非常用水はあるものの、非常電源頼みで、実際は十分とは言えません。

そこで、数年前に進められた「水巡り井戸整備事業」を踏まえ、Mウイング周辺に公共の防災井戸を設置できないか、という提案です。周辺には水脈もあり、井戸があれば災害時の生活用水確保に役立つだけでなく、せせらぎとの相乗効果で観光資源にもなり得ます。防災井戸の整備をぜひ検討していただきたいと思います。

イ 意見交換

【市 長】

上層階にあるMウイングの避難所について、地震や水害の際の課題が指摘された。水害に対してはMウイングの構造は一定の合理性があるが、大地震時には倒壊の危険性が高く、上層階への避難は困難と考えられる。また、物資の長期備蓄や搬送の課題もある。地震と水害は別の視点で対応策を考える必要があり、今後は第一地区の密集住宅地に適した避難所の在り方を再検討すべきと考えます。

これらを踏まえて、第一地区の指定避難所の個別課題については、危機管理部長からさらに詳しい説明をします。



【藤松危機管理部長】

松本市では、防災物資の備蓄を「集中備蓄」と「分散備蓄」に分けて行っています。市全体の備蓄物資の半分は島内の防災物資ターミナルに保管し、残りは市内各地の備蓄倉庫に分散しています。第一地区についてはMウイングが備蓄拠点となっていますが、確かに備蓄量は十分とは言えません。

ただし、大規模災害時には発災から3～4日で、国からプッシュ型支援が届く体制になっています。松本市は大規模な物資ターミナルを持っており、受け入れ・仕分け・配送までスムーズに行える点で非常に恵まれた体制が整っています。

しかし、最初の3～4日は各自で対応していただく必要があり、各家庭で最低3日、できれば1週間分の水・食料の備蓄をお願いしています。また、共助の取り組みとして町会や自主防災組織にも補助金を交付していますので、倉庫や備品の整備にぜひご活用ください。

さらに、令和7年度には防災アセスメントを実施し、各地区の危険性や避難者数を具体的に把握し、備蓄計画を見直す予定です。災害時に確実な物資配送を目指し、危険箇所の把握と対応策も進めてまいります。

【市 長】

先ほど上條さんからご指摘のあった、中央公民館の管理スペースについてですが、今すぐ備蓄用に使うのは難しいものの、避難が必要な状況では会議室なども活用できるよう、中央公民館と第一地区公民館の線引きの見直しを庁内で検討していきます。

【藤松危機管理部長】

まずMウイングについてですが、停電時でも非常用発電機により、燃料が続く限りはポンプで水を供給できる体制になっています。燃料は市が石油商業組合と協定を結び、迅速に補給できるよう備えています。

また、防災井戸に関してですが、停電リスクを考慮すると、手押し式ポンプが有効だと考えています。さらに、災害時協力井戸制度を昨年9月から開始し、既存の井戸を無償提供いただけるよう事業者へ登録をお願いしているところです。第一地区でも今後登録を進めていきますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

【市長】

現在、近隣で井戸の確保ができる可能性はありますが、まだ協力段階に至っていません。新たに井戸を掘ることについては、防災面と、今後の伊勢町の賑わいづくりの両方の視点から、必要性や可能性をさらに研究していきたいと考えています。

【第一地区町会連合会 上條会長（本町1丁目）】

以下、3点について再度お聞きします。

1、分散備蓄の範囲について

松本市の防災物資の分散備蓄は、35 地区それぞれに行われているのか。また第一地区では中央公民館の倉庫なども対象になっているのか確認したい。

2、避難所が使えない場合の代替避難場所について

主要な避難所（Mウイングや駅前会館など）が使えない場合、第一地区の住民はどこへ避難すればよいのか、あらかじめ明確に示して周知してほしい。

3、高層建物の避難所運営実例について

高層階を利用した避難所の運営実績が全国にあるかどうか、市でしっかり調査して、参考事例を示してほしい。



【藤松危機管理部長】

1、分散備蓄の範囲について

松本市では約50か所に防災備蓄を分散しており、小中学校などの広い敷地に耐震性のある自動開錠式倉庫を設置している。中央公民館には1階と5階に備蓄スペースがあり、大型倉庫ではないが備蓄場所は確保されている。

2、避難所が使えない場合の代替避難場所について

第一地区の指定避難所が使用できない場合は他の避難所へ避難してもよい。ハザードマップには指定避難所が記載されているが、所属地区以外の情報も市役所などで入手可能。今後、他の避難所への避難も可能であることを周知していく方針である。

【第一地区町会連合会 上條会長（本町1丁目）】

それは、この避難所が使えたとしても他の避難所へ行ってもよいのか。

【藤松危機管理部長】

はい。



【第一地区町会連合会 上條会長（本町1丁目）】

避難所について十分な情報が伝わっていないため、「Mウイングに行かないといけない」と思い込まれたり、「避難所は要らない」と誤解されたりすることがあります。情報の小出しではなく、しっかりと広報し、たとえば第一地区ならその周辺のハザードマップを配布するなど、地域ごとの防災情報を分かりやすく伝える工夫が必要だと考えています。

【藤松危機管理部長】

3、高層建物の避難所運営実例について

能登半島地震の支援で松本市職員が確認したところ、輪島市では14か所のうち1か所以外、3～4階建ての建物を避難所として実際に使用していた。ただし、6階建ての施設（Mウイングのような高さ）の避難所利用例は見つからなかった。高層階への避難は高齢者にとって大きな負担であり、特に停電時にはエレベーターが使えず移動が困難になる課題がある。

【第一地区町会連合会 上條会長（本町1丁目）】

地震時はエレベーターが使えないのが基本ルールであり、両方の建物が使えない前提で考えるべきだと思います。

【藤松危機管理部長】

輪島市の避難所では高齢者も2階に避難していた事例があるが、基本的には1階避難が理想。Mウイングでは1階のヘルスラボや2階の学習スペースを避難所として活用できないか、庁内で検討を進めたい。

【市長】

高層避難所という特殊な課題を重く受け止め、地域づくりセンター長や危機管理部と対策を進める。

また、広域避難の考え方を住民に十分伝えられていない現状を反省し、防災情報の発信を今後さらに頻繁かつ幅広く行っていく。



(3) 松本城下町の舞台について

ア 課題説明等

【松本深志舞台保存会の総務委員長 桑井町会長（伊勢町2丁目）】

松本深志舞台保存会の総務委員長として、祭り舞台の保管庫の耐震性に強い懸念を表明します。現舞台庫は補強不可と診断され、建て替えが必要です。松本市指定の重要有形民俗文化財である舞台の保全と観光資源化のため、18台を一堂に展示・保管できる施設整備を要望します。

そこで、私たちは以下の点について松本市にご配慮をお願い申し上げます。

① 新たな舞台庫の建設支援

18台の舞台を一堂に並べ、保管・展示ができるような施設の建設が理想です。現在、天神の境内には16台が揃い、圧巻な光景となります。常設展示できれば、観光資源としての価値も飛躍的に高まると考えています。

② 候補地としての提案

伊勢町内の意見として、中町・増田家具跡地の活用が挙がっております。ガラス張りの舞台展示施設として整備すれば、街の新たなランドマークにもなります。

松本舞台保存会としての総意として、ぜひご検討をお願いいたします。地域の伝統文化を守り、次世代に伝えるために今こそご支援をお願いいたします。

【山田松本商店街連盟会長（本町2丁目）】

祭り舞台18台は年2回しか披露されず、市民や観光客の関心が薄れがちです。

今後は出動機会を増やし、目に触れる場を広げる必要があります。ただし曳き手不足が課題で、広く募集する必要があります。常設展示場があれば舞台の魅力を伝えやすく、観光資源として活用できます。開発の際には舞台を展示できる場所の確保を意識して進めてほしいです。



イ 意見交換

【市 長】

舞台庫の耐震問題や保管・展示の課題について、市として進展できていないことを反省しつつ、今後の対応を模索しています。巨額な費用をかけて保管だけ行うのでは不十分であり、2～3台でも展示できる具体的な場所や構想が必要と認識しています。新博物館建設時に展示スペースを確保できなかったことを悔やみつつ、今後は市役所内で責任者を明確にし、舞台保存会と連携して具体的な提案や選択肢を検討し、観光資源としての活用を目指す方針です。

【傍聴席 的場さん（伊勢町2丁目）】

令和5年8月の懇談会で市長は、舞台庫について立地や費用の概算を調査・研究する必要があると話していましたが、現在の状況を見ると、その後の進展はないということなののでしょうか。

【市 長】

申し訳ございません。具体的な数字をはじき出すというようなことは、進んでおりません。

【傍聴席 的場さん（伊勢町2丁目）】

舞台庫と展示場は別のものと考えており、舞台庫はこれまで通り各地区ごとに耐震対応をして整備し、展示場は3～4台を並べて年に数回展示内容を入れ替える形で進めてほしいと考えています。

【市 長】

舞台庫の耐震問題を解決し建て直すために、費用や公費負担の範囲、地元の負担について改めて整理し、令和7年度のできるだけ早い段階に庁内で取り組みを進めるよう指示する。町会連合会や舞台保存会とも協議の窓口を整理し、数字をもとに具体的な方法と結論を出すことを令和7年度中の課題とし、地元の意見を踏まえた話し合いを進めていきたい。

6 振り返り

【市 長】

本日の議論を通じて、第一地区が大きく変化し、その課題が複雑化していることを改めて実感しました。一方で、パルコの閉店を契機に、市民全体の関心と取り組みへの機運がかつてないほど高まっていると感じています。この問題は松本市全体に関わる中心的課題であり、今こそ全市民とともに解決策を考える重要な時期です。新たな方針をもとに、市民の共感と納得を得ながら具現化を進めたいと考えています。

【第一地区町会連合会 上條会長（本町1丁目）】

本日は約2時間にわたり活発な意見交換が行われ、市からも丁寧かつ真摯な対応が示されました。具体的な結論は出なかったものの、市政が住民の不安に寄り添い、今後とも共に考えていく基盤が築かれたと感じています。今後の市からの提案にも大きな期待を寄せています。本座談会にご参加いただいた市長、部長、関係職員、町会長、地域住民の皆様に心より感謝申し上げます。